

大阪YMCA

東日本大震災 復興支援活動報告書

2011 - 2013 Summer

YMCA Relief Aid Report
for East Japan Earthquake





ごあいさつ

2011年3月11日14時46分に発生した未曾有の東日本大震災から2年余が経過しましたが、被災地においては復興がなかなか進まず、現在も多くの方々が希望を見出せず苦境にたたされています。皆様には震災発生以来さまざまな支援活動をいただきました事、心より感謝申し上げます。

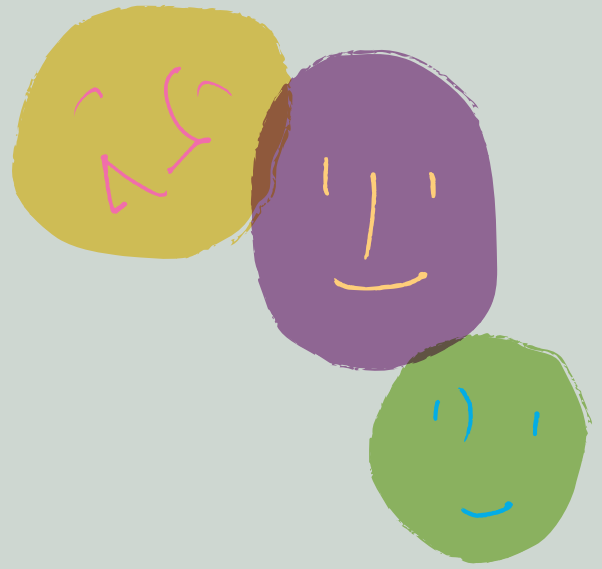
大阪YMCAは大震災発生直後から今日にいたるまで、時間の経過とともに変化する被災地のニーズを汲み取ることに努め、青少年、障がい者などの弱者になりやすい方々の支援に力を入れて活動してまいりました。具体的には、(1)募金活動(2)復興支援活動(3)ボランティアコーディネーター派遣(4)キャンプ実施・参加支援(5)ユース(青年)ボランティア派遣(6)研修会・講習会開催(7)チャリティイベント開催等として続けてくることができました。特に、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターへはコーディネーターとして職員1名を2年間継続派遣し、現地の方々と共に歩む支援を心がけてきました。また、「子どもが元気になることで家族や周りの大人も元気になる」ことを願い、ユースボランティアが中心となり多様なプログラムを通して被災した子どもとそのご家族に関わってまいりました。これらのプログラムは多くの方々のボランティアな働きと募金や基金の支えにより成り立ってきました。改めてご協力いただいた皆様に心よりお礼と感謝を申し上げます。

全国のYMCAでは、被災された方々の復興をめざし、各地で「Big Heart Project」と称して支援活動を続けてまいります。現地の復興はまだまだ先が長い状況です。大阪YMCAは引き続き全国のYMCAと協力して、出来ることを続けて支援してまいります。

今後とも支援を続けていくために皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

大阪YMCA
総主事 末岡 祥弘





大阪YMCA 東日本大震災復興支援活動報告書

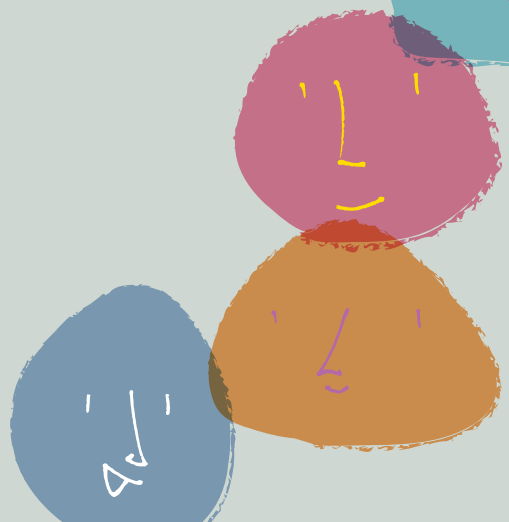
OSAKA YMCA

YMCA Relief Aid Report
for East Japan Earthquake

2011 - 2013 Summer

INDEX

- 02 ——— ごあいさつ
- 04 ——— 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター
- 07 ——— 募金活動報告
- 08 ——— 支援プログラム報告
フレンドシップ・キャンプ/キッズ・スカラーシップ制度/
発達障がい児親子キャンプ
- 10 ——— ボランティア現地派遣/ワイズメンズクラブ活動報告
- 12 ——— 企業・他団体からの支援
- 13 ——— 海外からの支援
- 14 ——— 東日本大震災支援活動記録
- 15 ——— 復興支援活動の今後





大阪YMCAでは、震災発生後から日本基督教団宮古教会の協力を得て活動を始めていた盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを支援し、継続してボランティアコーディネーターとしてスタッフが現地に滞在し、地域に根ざした支援活動を続けています。

● 1年目の4つの活動目標

(2011年4月～2012年2月)



盛岡YMCA
宮古ボランティアセンター
初代所長 いけだ しょういち
池田 勝一

- ① 地元の方々が一日も早く元の生活に戻れるように奉仕すること。
- ② 仮設住宅に入居されている方々が孤立・孤独にならないようコミュニティ作りをすること。
- ③ 地元での積極的な買い物、飲食、観光案内を通して地元を盛り上げ元気にすること。
- ④ ボランティアとして活動してくれた仲間達に、地元で知り合った方々と友人となり手紙の交換をしたり、再びボランティアとして地元を訪問してもらえるよう働きかけること。

2011年3月11日。私は大阪でその揺れを感じました。テレビに映った東北の様子に唖然とし、阪神淡路大震災を経験してボランティア活動もしましたが、東北を襲った津波の恐ろしさは比較のしようがありませんでした。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンターは、震災直後の3月18日より濱塚総主事と日本基督教団宮古教会の森分和基牧師が共に支援活動を行いました。

私はそのころ、33年勤めた大阪YMCAを3月31日に退職し、大学院生として次なる自分の「夢」に向かって準備を進めつつも、東北の被災地に行かなければという気持ちを抱いていました。そんなとき、「宮古ボランティアセンターの所長を」という声がかかり「被災地の状況は待ってくれない」と迷いなく赴任を決めました。

4月末頃までは、電気、ガス、水道等のライフラインが寸断され、ヘド口の異臭がひどい中、センター近隣の瓦礫の撤去、荷物の運搬、天井・壁・床はがし、道路、側溝のヘド口除去等の活動がほとんどでした。当初、被災者宅を回り要望を集め始めると、警戒されることもありましたが、浸水した家々などを回り状況を調べ、ビラを配り、何度も足を運ぶうちに口コミでセンターの存在が広まり、ボランティア活動を要請する電話がひっきりなしに鳴るようになっていました。ボランティアとして関わってくださった方々は、全国、海外のYMCAの仲間達はもとより「ハイパーボランティア山の会」や岩手大学の学生たちで、直接被災地に來ることが困難で物資や募金を送ってくださった方々、そしてボランティアを送り出す側のご家族や職場の方々を含めると本当に多くの方々に支援していただきました。



9月頃までは家屋周辺の片付けが中心でした。ある日、手際よく作業をしすぎて、被災者が手元に残しておきたいものまで片付けてしまうことがありました。再びそのようなことが起こらないように、活動の前に必ず1時間半のオリエンテーションを行い、その中で単に作業を進めるだけではなく、ゆっくり声をかけ合いながら被災者の心に寄り添った活動を心がけることを伝え、そして「すべてのひとをひとつにしてください」「人にしてもらいたいことは何でもあなたがたもしなさい」という聖書の箇所を読み、ボランティアの皆さんを送り出しました。具体的には、作業依頼を受けると必ず依頼主と打ち合わせを行い、支援グループのリーダーを決め、リーダーは作業には加わらず全体の安全確認やボランティアの体調管理(水



2011年12月シニア富士山ツアー



分補給や休憩のタイミングの調整)、作業依頼者とのコミュニケーションを図る役割を担っていただきました。そしてできるだけ地元の町会長に声をかけ、一部分の作業ではなく町全体で作業ができるようにしました。そうすることで、町内会の連携が活性化し、コミュニケーションが深まるようになりました。

6月から10月頃は小学校(避難所…8月10日には全て閉鎖)、仮設住宅、地域商店街復興イベントでのタコ焼、焼きそば、焼肉丼の炊き出しやミニ運動会等のイベントを実施しました。震災以降、避難所生活などで地域に住む人々がばらばらになってしまい交流が薄くなっていたので、町や人を元気にするためにはイベントによって集まることが必要だと感じました。

11月から3月は仮設住宅の寒さ対策として断熱マット引きをしたり、シニア富士山ツアー、こどもスキーキャンプ、もちつき、ぜんざい、富士宮焼きそば、カルビフランク等(吉田精肉店協力)の炊き出しの集いを行いました。寒さがきびしいので部屋に閉じこもりがちで出てこれなかった方たちには一軒一軒声かけ訪問を行い、おもち・焼きそばを届けながら安否確認をしました。もうひとつ大切な活動として、毎朝、宮古小学校の通学

路の横断歩道に立ち、子どもたちや地域の方々の交通安全の見守りを行いました。津波で故障した信号機の代わりに安全確保のため始めたこの活動ですが、当初はげんそうだったドライバーの方も、毎朝挨拶を続けるうちにたくさんの方々が自然と挨拶を交わしてくださるようになりました。このような地道な働きこそがYMCAの役目だと確信いたしました。

被災地はまださまざまな支援が必要です。幼児から高齢者の方々一人ひとりに寄り添いながら本当の意味での隣人となれるよう、今後もつながりを大切にしていきたいと思っています。

学校現場に携わって、YMCA活動は、ただの奉仕活動をしているだけでなく地域に根差した人間性の心の回復を推進する教育活動をしている団体であることを再認識させていただきました。いつの時代も身近な所にYMCA運動が継承できるようにお役にたてるよう努めたいと思います。

最後になりましたが、被災地の一日も早い復興をお祈りし、活動に関わってくださった方々に心より感謝申し上げます。

そして、盛岡YMCAの益々のご発展とご活躍をお祈りいたします。

2012年2月からは木田スタッフがコーディネーターとして現地で活動しています。ボランティア活動をしていた多くのNPO団体が去り始めていく中で、宮古に拠点を置き、変化していく状況に対応するYMCAの存在・活動には多くの方が喜んでくださっています。



2012年には日本基督教団宮古教会の隣接の更地にプレハブのボランティアハウス(新ボランティアセンター)を建設することになり、2012年7月8日、開所式を執り行うことが出来ました。

● 地元の地道でどろ臭いYMCA活動

(2012年2月～)



盛岡YMCA
宮古ボランティアセンター
現センター長 木田 泰之
きだ ひろゆき

「おはようございます!いってらっしゃい!」宮古小学校の通学路交差点での毎朝の光景です。センターの開設当初から続いており、私が2012年2月10日に宮古に入ってから、「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」欠かさず続けてきた「交通安全あいさつ運動」活動です。このあいさつは一人当たり年間3万人、2年間で約6万人と交わっており、これは宮古の人口6万人に偶然にも一致し、計算上宮古のみなさん一人ひとりとあいさつを交わせたこととなります。このようなことにもご縁を感じつつ、継続すべきことは地道に、そして新たな課題へは敏感に、取り組みを続けてきました。

震災直後の危険な復旧作業が一様に落ち着きを取り戻し始めた頃、励みやふれあいをお届けするふれあい炊き出し活動や、仮設住宅及び地域への「こころのケア」が始まりました。活動3年目、地域の方との更なる深まりが喜ば



しい半面、長引く仮設住宅暮らしの不安や怒り、悲しみを肌で感じることも多くなりました。寄り添いのところで何をすべきか判断しつつ、被災された方とともに歩みを続けています。もう一つの大きな柱は子どもたちへのケアとして、また地元の高校生のリーダーシップを育み、次世代へのつながりを願っての「宮古を愛する子どもたちの育成事業」です。子どもたちへのプログラムではありますが、子どもの・孫の喜ぶ姿は即ち、保護者の・家族の喜びでもあるので、全世代へのプログラムでもあるといえます。2012年度はまず活動(野外活動、キャンプ、サッカー)をスタートすること、2013年度は視点を「子どものプログラム」から「地域活動」として捉えることとしました。それはYMCAの子どもの活動にさまざまな人たちをつなげることで、地域の活動との相乗効果を期待してのことです。具体的には宮古では大きな存在の漁協や小学校の全面協力の共同プログラム、また大学や市内高校の多大な理解と協力によるプログラムの実施です。これらがつながった背景には、学校もそれぞれの団体も「何かをしたい！」という個別な思いがありつつ、行動を起こすきっかけがなかったり、新しいこと

に時間や人的体制をとる余裕がなかったからです。YMCAが人をつなぎ、グループをつなげる役割を果たすことで、新たなムーブメントを生み出せる可能性を感じます。また協同でプログラムが実施できるということは、子どもたちが宮古の地でいかに大切に思われ、育てられているか、そしてYMCAが地域に浸透し、信頼されている証だと感じ、関係性を大切に育んでいきたいと思えます。



これまでに復興の段階に合わせていろいろな活動が生まれていますが、特に2013年度からは海の活動(カヤック体験と宮古湾クルーズ)ができたことは、とても大きな意味を持ちます。津波によってすべてを失った、悲しみの「海」ですが、その海のプログラムに保護者のみなさまは我が子を送り出してくださいました。また、このプログラムの実施には、地域のマリンスポーツ団体や高校ヨット部の先生・生徒の協力がありました。子どもたちの表情も生き生きとし、胸が熱くなる場面もありました。まさに保護者のご理解があり、地元のご協力があり安全の内に行なわれたYMCAを象徴するプログラムです。



これから次のステップとして、新しい(必要とされる)心のケアの取り組みがあります。こころの感度を上げ、全国のボランティアや多くの支援者、地元協力者とともに次年度へつなげていければと思います。



宮古での活動実績 (2013年3月末現在のべ人数)

■ 受益者数	_____	56,885人
■ ボランティア数	_____	18,548人

日々の活動の様子や宮古の様子をブログでアップしています。
「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」で検索いただき、ご覧ください!

宮古の子どもたちの活動

募金活動報告



● 募金活動

大阪YMCAでは、東日本大震災の発生直後より、スタッフのみならず、会員・ワイズメンズクラブ・メンバー・フェイスブックでのイベント告知でお知りになった一般の方までがご協力いただき、街頭募金活動を行いました。雨の降る日や、夏の暑い中の活動もありましたが、皆様の善意がたくさん集まり、日本YMCA同盟を通して仙台・盛岡・茨城の各YMCAやその他被災地の支援にあてることができました。



近鉄上本町駅前(南YMCA)



阪神百貨店梅田本店北側(土佐堀YMCA)



JR高槻駅前(高槻YMCA)



泉北高速泉ヶ丘駅前(堺YMCA)

2013年9月までに、
街頭募金で集まった寄付は
2,123,620円
にものぼりました。

0万円
力になりたい
(順不同)
■義援金の受け付け
◆募金箱設置
▽大阪市港区弘教会(06-6971-5826)
8日午前10時~午後7時
同市港町の八幡屋海浜街で
行う花まつりの場で、
▽大阪YMCA(06-641-0894)が、大
10日午前10時半~正午、J
▽白鷺酒造(078-856-7190)が、9、10
日の午前10時~午後4時
神戸市東灘区生吉南町の白
鷺酒造資料館で開催する
「酒蔵開放」で、

東日本大震災
関西発
支援情報

支援通信
■寄付を受け付ける主な団体
大阪YMCA
・二重東京UJ/J銀行大阪為替振込支店
(費) 022060(附出法人大阪キリス
ト教育年会)。通信欄に「東日本」と
明記。大阪YMCA(大阪市西区土佐
堀1。電話06-6441-0894)など、各
地のYMCAでも募金を受け付ける

全国のYMCAで集められた募金及び世界125の国と地域のYMCAのネットワークを通しての多くの支援は、日本YMCA同盟に集約され、今後の被災者支援や復興活動のために用います。
YMCAはネットワークとボランティア活動などを通して、中長期に行なう支援も視野に入れ、特に災害の場に被害となる子どもや高齢者、障がい者、在住外国人などのPRのためにできることに全力を尽くします。

募金告知を4大紙に行い、朝日新聞と読売新聞に掲載されました。

募金活動時のボード

支援プログラム報告

フレンドシップ・キャンプ キッズ・スカラシップ制度 発達障がい児親子キャンプ

これらのプログラムは、日本YMCA同盟を通じて、三菱商事株式会社の多大なご支援を得て行われたものです。



三菱商事YMCAフレンドシップ・キャンプ



聴覚障がい青少年キャンプ(HHキャンプ)

2011年8月13日～15日の2泊3日の日程で六甲山YMCAにて聴覚障がい青少年キャンプ(HHキャンプ)を実施しました。1975年に香港で第1回目のHHキャンプが開催されて以来、33回の歴史を誇るキャンプです。

今回は近隣からの参加者5名の他、東日本大震災の被災地である宮城県仙台市からの参加者2名を交え、7名の仲間が集いました。

オリエンテーリングや様々なグループワークゲーム、野外料理、クラフト、また夜にはキャンプファイヤーと短期間ながら盛り沢山のプログラムを通して一つの家族となり、最終日には2012年に香港・マカオで開催される国際キャンプでの再会を誓いました。

当キャンプの実施にあたり、指導者養成に大阪ワイズメンズクラブのご協力をいただきました。



六甲山YMCAにて集合写真



キャンプファイヤーで震災体験を語る宮城県仙台市からの参加者



カヌーを楽しむ参加者



HHキャンプの初日の活動の様子が8月14日の読売新聞(朝刊)に掲載されました。

被災児童招待六甲のびのびスキーキャンプ

2011年12月26日～28日の2泊3日で宮城県山元町の小学5-6年生の児童48名を招待して、六甲のびのびスキーキャンプ(三菱商事フレンドシップ・キャンプ)を開催しました。山元町は仙台から車で1時間ほどの所にあるイチゴやリンゴ栽培の盛んな農村地帯です。この地域は海岸線に面しており、5校のうち2校が津波で大きな被害を受けました。事前の説明会では、今回の招待により初めて参加するYMCAキャンプの説明を全員が熱心に聴いて下さり、震災から復興へむかう保護者や子どもたちの気持ちが感じられました。

キャンプでは、初めて出会う友だちやYMCAユースボランティアと過ごす3日間の初日、まずはバウムクーヘン作りでグループの結束を図り、ボランティアによるバルーンアート体験では割れないか不安な手さばきながら少しづつ慣れ、動物の形をつくりあげていました。2日目は初めてや久しぶりのスキー体験で雪の感触を楽しんでいました。

キャンプを通して、多くの出会いに恵まれた3日間であり、笑顔も元気もいっぱいになることができました。今後も大阪YMCAと仙台YMCA、また山元町への支援の輪が広がることを願い、希望をもって取り組みたいと思っています。



三菱商事キッズ・スカラシップ制度

サンシャインキャンプ実施報告

2011年7月～現在にいたるまで、大阪YMCAの実施する宿泊・日帰りキャンプに、近畿圏に行政支援や血縁を頼りに避難されている方々、とりわけ大切なお友だちと離れ離れになってしまった子どもたちのこころのケアを目的として参加を援助する、サンシャインキャンプを実施し、招待しています。この制度のおかげでたくさんの子どもの参加が実現し、たくさんの笑顔に出会うことができました。



保護者からの声

大阪で生活する中で、お陰さまで少しずつ精神的にも安定してきたと感じていた頃に、今回のキャンプを知り、とても嬉しく思い参加を希望しました。震災後一番気にしていたのは、こどもの心と身体の健康でしたので、有難く思いました。食物アレルギーがある為に配慮が必要なのですが、その点も対応して下さり本当に有難かったです。息子も、夏休みになったらYMCAのキャンプに行くんだ!と楽しみに過ごしていました。こうして新しい地で、楽しみで心待ちなことが出ていくのは、息子にも私にも大きな前進でした。

昨日キャンプから戻りました。自宅に帰るまでは疲れた様子でしたが、夕食を終えた辺りから、キャンプの楽しかった経験をイキイキと話し始めました。「お母さん、ニンジンがかたいから、身体全部の力を使うといいんだよ」「カヌーはこうやって、こうやって漕ぐの。落ちたら知らせる笛を吹くの」「キャンプファイヤーってすごいんだよ!!」「リーダーが優しくかったの。いつ又会えるかな。」「昨日目が覚めた時は、夢かと思った。ちょっとしてキャンプに来てるんだって思い出したら、すっごく嬉しかったん」などなど、キャンプで経験したこと、思ったこと、お母さんに教えなきゃと次々話す息子の姿を見て、急にお兄ちゃんになったように感じました。帰ったその日から、冬にも行きたい!年長さんになっても行きたい!!と次を楽しみにしています。震災によって受けた息子の心のケアになったらと参加させて頂きましたが、親にとっても前に進める、前を向ける、良い経験になりました。どうも有難うございました。

発達障がい児親子キャンプ2011-2013

(六甲山親子キャンプ)

抑えきれない思いから

甚大な被害をもたらした東日本大震災。日本中の誰もが心を傷め、何かできることを模索した出来事でした。その中で、非日常が苦手な発達障がいの子ども達が、フラッシュバックを起こしたり、パニックで避難所でも疎まれるということを知り、つきあがってくる思いを抑えられず、キャンプの企画書を書いたのは4月のことです。幸いにも企画が通り、たくさんの意見をいただきながら、このキャンプが実現しました。

六甲での親子キャンプ

六甲山YMCAで2011年8月15日～17日、発達障がいの子ども達と家族を招待した六甲山親子キャンプは、仙台YMCAに関係する10家族29名と仙台Y関係者2名計31名が参加しました。親子でのキャンプは私達にとって初めてで不安もありましたが、リーダー打ち合わせの段階からグリーン・ワーク担当の倉石哲也先生(武庫川女子大学)がアドバイザーとして助言を下され、準備を進めてきました。キャンプでは子どももですが、親御さんにも是非ゆっくりしてもらいたいと夜には親御さんだけの時間を持ったことは非常に有効でした。日ごろ、他の保護者と交流する時間がなく、震災時の誰にも言えなかったことを話し、これからの特別支援の情報交換をし、最終的には希望に繋がる時間を共有できたことは大きな成果となりました。2012年も三菱商事株式会社のご支援により同数程度の参加をもって好評のうちに終わることができ、また2013年は新しい試みとしてファンドレイジング委員会が立ち上がり、多くの方々の寄付と助成金をいただき、キャンプが実現しました。



大阪日日新聞 2011/8/28掲載

みなさんの声

5歳から中学生の子ども達が興味・関心を持てるようなポイントハイクや野外料理など簡単に楽しい活動にしたことで子ども達は積極的に楽しく参加していました。通常は「遅い」「うまくできないから」ということで、させてもらえなかったようなことに友達やリーダーに背中を押してもらってきたことには全ての人が感激していました。「避難所暮らしで、赤ちゃんがずっと緊張していたから。リラックスしました」「この子が何かしたら嫌がられ、誉められても同情で…今回生まれて初めて人から認められたと思います」「この子にあうところをいろいろ探し、人間的に良い人がいるところもあったけど、やっぱりYMCAは質が違う。今回来て、ますますそう思いました」「ぼくが、こんらんしたとき、いっしょにいてくれてありがとうございます」と多くの感謝の言葉を寄せていただきました。

最後に

「いつも丁寧な声かけを」、「子どもの長所を認め」、「頭ごなしに言わない」、「大声を出さず」、「指示は丁寧に簡潔に」等、いつも私たちが自然におこなっていることでリーダーと参加者がしなやかな人間関係を創り上げることができ、参加者をはじめ私たちスタッフ・リーダーも感動に包まれた時間を過ごしましたことを感謝をもって報告します。



保護者からの声

自閉症というハンディで、ストレスがあってもうまく言葉で表現できず、親も理解してあげられず、1人で我慢することもある19歳の息子と、その兄弟ということで我慢やつらさを隠すこともある小6の息子。今回のキャンプでリーダーの皆さんが、息子たちの良いところをたくさん認めてくださり、やわらかい関西弁でほめてくださったことが、息子たちの大きな心の支えとなったようです。特に下の息子は「絶対ひとりにならないよ」、「そばにいるよ」というリーダーの姿勢が深く心に響いたのか、自分もそういう人になりたいと思ったようで、夏休みの作文に書いていました。また息子たちが純粋で素直だとほめてくださった時、親として何より嬉しかったです。でもそれは、息子たちが今まで出会った人たちのおかげだと私はいつも思っています。今回皆さんがその自慢の出会いの人たちの中に間違いなく加わったことが私の宝物です。これからたくさんの子どもたちの心に暖かい灯りを分け続けてあげてください。私たち親子も、その灯りをおすそわけできる存在でありたいと思います。

ボランティア現地派遣・ ワイズメンズクラブ活動報告

● スタッフ派遣

大阪YMCAは、震災直後から仙台YMCAボランティア支援センターにコーディネーターとしてのスタッフ派遣を行いました。

スタッフ報告 (石橋英樹:2011年4月18日～24日滞在)

仙台市宮城野区に設置されているボランティアセンターには、毎日100～200名程度のボランティアが集まります。そのほとんどは仙台市周辺から集まった学生や主婦などの一般の方ですが、中には県外からやってきてtent生活を送りながら毎日被災地に向かっている方もいます。そんなボランティアの活動内容は、地震・津波による被害を受けた一般家庭から依頼を受けて、瓦礫の片付けや泥だしです。未だ重機が入れるほど道路が復旧していない地域にセンターが配車する車で乗り込み、敷地内にある泥や瓦礫を片付け、家の中から使えなくなった家財道具や畳などを運び出す作業をします。全ての作業が人手で行われるため、一軒の作業を終えるのに数日間かかる依頼もあり、毎日の作業を終えたボランティアは文字通りドロドロになってセンターに戻ってきます。

この被災地域からの依頼とボランティアとを結びつけているのがボランティアセンターです。センター所在地である宮城野区の社会福祉協議会の方を中心として、全国から応援にきている各地の社会福祉協議会の方々、また、ボランティアとして継続的に関わっている地元の方々その運営を担っています。仙台YMCAも仙台市との協働で宮城野区と若林区でのボランティアセンターの設立、運営に関わっており、日本YMCA同盟を通して仙台に派遣されているスタッフ・会員の皆さんもセンターの運営スタッフとして活動しています。

私はその宮城野区ボランティアセンターの運営スタッフとして、ボランティアを現場に送り出すためのボランティア支援班で、送り出しや出迎えのための配車をアレンジしたり、スコップや一輪車といった作業用の道具を貸し出す担当をさせていただきました。



私が支援班にいる間に進めたもう一つの役割は現地化です。いくらYMCAのスタッフがボランティアとの関係づくりなどに長けているとはいえ、所詮は短期間で交代せざるを得ない要員です。ノウハウの積み重ねや土地勘が重要な作業は、できるだけ現地のボランティアに引き継いできました。

短い期間だったので過渡期状態のままでの離任となりましたが、ある程度の枠組みを作れたと評価しています。

地域社会からたくさん集まるボランティアに比べ、センターの運営スタッフは常に人手不足の状態です。今回の派遣で得た現地とのチャンネルを生かして、今後も中・長期的に継続されるであろうボランティアセンターの運営を見守っていきたいと思います。

● ユースリーダーキャラバン

2011年の夏の終わりに、大阪YMCAのユースボランティアを中心とした38名が3期(1期・2期8月、3期9月)に分けて被災地に出向き、「今、自分たちにできる事」を考え、行動する機会が与えられました。多数のボランティアを受け入れていただいた仙台YMCA、盛岡YMCA宮古ボランティアセンター、そして震災募金にご協力いただいた多くの皆様に感謝するとともに、参加リーダーの感想を添えてご報告とさせていただきます。

参加リーダーの声

宮城南三陸辺りを見渡した瞬間私は言葉を失った。何にもない。家もないし、人もいない。足音も聞こえない。あるのはたくさんの瓦礫、崩れた家、押しつぶされた車、建物の上に打ち上げられた船や車、残された遺族の手紙…。そんな光景を目にした後、子どもたちとリレーや鬼ごっこ、ドッチボール、最後には心がひとつになった大縄跳びなど、スポーツ大会を行った。震災で被害を受けているはずの子どもたちであったが、そんな様子を感じさせることもなく元気いっぱいびぎりの笑顔で走り回っていた。また仮設住宅に住む、ある一人の女性と話をさせていただく機会もあった。「今は道ができて物は車で買いに行けるからそんなに困っていない。お年寄りは大変だと思う」、「手を洗う水もなくて山に水くみに言った」。このようなことを女性は話してくださったが、どう返事をしていいかわからなくなることもあった。しかし実際に話を伺い震災の現実を知ることができた。女性にとっても話をしたことで、少しでも心のわだかまりや不安が軽減されればと思った。私たちにできることは何だろう…。震災が起こってから考えてきたが、実際に被災地を目にした今、自分の目や体で感じたことを、また依然震災による被害は続いていることを、周りの人々に伝えることが必要だと感じた。

ユースボランティアリーダー派遣

盛岡YMCAキャンプに参加して (2011年8月)

「盛岡YMCAのキャンプに参加してみないか?…」6月中旬、私が所属するYMCAの所長から突然今回のキャンプの話があり、私は迷わずキャンプへの参加を決めました。

今回、大阪YMCAから私を含め4人のリーダーが参加しました。それぞれ所属しているYMCAが違うので、ほぼ初対面の状態で新大阪駅を出発しました。

期待と不安を胸に、到着した盛岡YMCAは、キャンプの組み立て方やプログラムが予想をはるかに上回るくらい大阪YMCAと違っていたため、最初は戸惑いました。しかし、話し合いを重ねるうちに、盛岡も大阪もどちらも子ども達に対する想いや願いという根底の部分に大きな違いがないことに気づきました。

そうして臨んだ山のキャンプと湖畔キャンプ。どちらのキャンプも子ども達とリーダーのイキイキとした笑顔がとても印象的でした。いつの間にか大阪弁で話す参加者が続出し、ノリツッコミをマスターしたいと練習に励む子がいたり、食文化の違いに驚いたり、お互いが多くの話題に出会えたキャンプになったのではないかと感じています。

普段と違う生活を経験し、新しい仲間とともに過ごすキャンプは、何か新しい発見があり、自分自身を見つめなおす機会が増える大切な時間だと思います。

今回、盛岡YMCAに来させていただいて、子どもたちやリーダー、スタッフ、一人ひとりとの出会いの中で、いろいろなことを感じたり、考えたり、本当に数えきれないほど多くの学びがありました。出会いは人を成長させてくれるものだと私は改めて感じました。これからたくさんの人にとってYMCAがキラキラと輝ける成長の場であることを願っています。



ワイズメンズクラブ活動報告

ワイズメンズクラブは、さまざまなボランティア活動やその支援活動をおこなう国際奉仕クラブであり、YMCAの働きを積極的に支援し、活動しています。今回の震災においてもYMCAのスタッフ・リーダーとともに募金活動を行ったり、被災地で支援活動を行ったりと、幅広く活動を展開しています。

大阪YMCAとワイズメンズクラブの大きな協同の動きとしては、2013年2月、震災を風化させないことをスローガンにワイズメンズクラブ中西部が中心となって東北の物産販売を中心とした「わいわいまつり」を開催しました。その収益(665,842円)は宮古ボランティアセンターをととして被災地支援のために用いさせていただきました。



ワイズメンズクラブ・国際協会西日本区中西部長 江見淑子さん(中)
わいわいまつり実行委員長 工藤義正さん(右)

企業・他団体からの支援

(敬称略)

三菱商事株式会社

三菱商事株式会社の支援により、全国のYMCAにおいて、被災地にて厳しい生活を余儀なくされている子どもたちを招待しての「フレンドシップキャンプ」が実施されました。また遠い地に避難し、慣れない生活を送っている子どもたちのために「キッズ・スカラシップ」の制度が設けられ、各地のYMCAが実施するキャンプに参加しやすくなり、大阪YMCAにおいてもたくさんの子どもの笑顔がみられました。

大阪市信用金庫

大阪市信用金庫より、大阪YMCAを含む5団体に寄託をいただきました。大阪YMCAの活動を信頼いただいた証であり、現地のニーズにこたえる長期的な支援プログラム実施などに大切に用いさせていただきます。



大阪日日新聞 2011年8月11日掲載

関西キンビバレッジサービス株式会社

福島県キリスト教会(日本聖公会) 附属のセントポール幼稚園に、大阪YMCA賛助会員である関西キンビバレッジサービス株式会社よりミネラルウォーター60ケース(2リットル・720本)をご寄付頂きました。

この度は、沢山のお水を頂きましてありがとうございました。震災から一年を迎えようとしています。しかし現在も目に見えない困難と向き合い、不安な毎日を送っているのが現状です。そのような中、福島の地を想い支えて下さる皆様のお陰で、前を向いて歩むことが出来ております。これからも教職員一同、園児が戻ってくる希望を胸に力を合わせて頑張りますので、今後共、お祈りいただけましたら幸いです。



公益財団法人 大和証券福祉財団

倶進会

子ども夢基金

被災地の発達障がいを持つ子どもとその家族を招待して2013年8月16日～18日に行なった「六甲山親子キャンプ」への助成金として、公益財団法人大和証券福祉財団より、災害時ボランティア活動助成50万円を受けることができました。この他に、六甲山親子キャンプへは、倶進会から50万円、子ども夢基金から85万円、また多数の個人・企業のご寄付を頂戴しました。



公益財団法人大和証券福祉財団 助成金贈呈式

その他

この他にも、毎月定期的にご支援をくださっている忠岡会計事務所や、株式会社テツタニ、株式会社FMC、音楽集団「楽」、西鈴蘭台頌栄保育園、またワイズメンズクラブ(国内・外含む)や、会員のみならず多くの個人の方からも、心のこもったあたたかいご支援を賜りました。

みなさまからのご支援により大阪YMCAの諸活動が支えられました。感謝してご報告いたします。

海外からの支援



● アジア・太平洋地域各YMCAからのメッセージ

大阪YMCAでは使命にも謳われるように世界の人々と力を合わせ、地球規模の様々な諸課題に取り組んでいます。とりわけ、アジア・太平洋地域にあるソウルYMCA、シンガポールメトロポリタンYMCA、台北YMCA、香港中華YMCA、ホノルルYMCAとは強い協力関係にあり、各国のYMCAから日本のYMCAや被災した方々に対し、多くの励ましと祈りの言葉が寄せられました。



■ 香港中華YMCAから

共に祈りましょう。哀れみ深き主なる神様、地震によって被害を受け、苦しみの中にある日本に目を向けてください。あなたの救いがありますように。多くの人々がこの災害で命、家を失いました。神様の恩寵とご加護がありますように。原発からの放射能に汚染されないようにあなたの慈愛で人々の命をお守りください。あなたの御手により、世界の他の原発も穏やかでありますように。

■ 台北YMCAから

台北YMCAを代表して東北地方において甚大な被害をもたらした地震と津波によって被災された方々に心より哀悼の意を表します。愛する人を失われた方々にお悔やみ申し上げます。生存しておられる方には癒しが、復興支援に当たられている方々には力が与えられますように。日本のYMCAの同僚や愛すべき仲間のすべてが、この困難な時に私たちの心が、重要な人道的働きに従事するみなさんと共にあるということに気づき、強められますように。私たちが一日も早い復興を祈り、私たちの心は、いつもあなた達と共にあるということをお覚えください。

■ シンガポールメトロポリタンYMCAから

私たちは3月11日に起こった大災害によって多くのものを失い、また、復興を目指す日本の方々と共にいます。地震とその後にもたらされた津波の恐ろしさ、そして未だに続いている原発へ不安は言葉になりません。私たちは生存者や救援者の静かな勇気を目にしてきました。私たちの力は、助けの手を差し伸べるにはあまりにも微力です。大阪YMCAの兄弟姉妹と共に「がんばってください日本!」と祈ることしかできません。困難な時にあって神様のご加護と心の救いがありますように。

■ ソウルYMCAから

親愛なる日本の皆様深い悲しみを抱えていらっしゃる方々に対し、何と慰めの言葉をかけてよいのか思い浮かびません。今はただ、生きていることを感じる他ないと思いますが、すべての方がこの悲しみに打ち勝ち、再建へと導かれますことを望んでおります。神様の恩寵がみなさまとご家族の上にありますように。

● 香港中華YMCAの活動

香港中華YMCAでは、東日本大震災に関する書籍を出版したり、Campas-Yのメンバー2名が被災地に行きその現状をみんなに伝えたりしています。「世界の国々は、日本はお金持ちということで支援をしなかったり気に留めなかったり忘れてたりしがちだけど、経済的なことは関係なく、被災地には「助け」を必要としている人達が今もいる。自分達が、困ったときにも、世界からちゃんと助けて欲しいから。被災地の助けを必要としている人達がいることをみんなに伝えていきたい。(現地大学生のコメント)」



● 親子にじ色キャンプ

香港中華YMCAの皆さん(24名)が六甲山YMCAに2012年1月26日～29日まで滞在し、様々な交流が行われました。その内、1月28日～29日には、東日本大震災で被害にあわれた方を招待して行く「親子にじ色キャンプ」も実施され、2家族7名の参加者と交流しました。言葉の違いもありますが、子どもたちを楽しませようとする香港の皆さんの厚意や親切や笑顔に魅了されながら、クッキングやゲームといったたくさんのプログラムを通じて、なごやかに交流することができました。今後も様々なかたちでの交流や支援が続くことを願っています。





東日本大震災支援活動記録

2011年

- 3月11日 ————— 地震発生日夕刻より、緊急募金を各地域YMCAで開始 以降、会員への募金の呼びかけや街頭募金を展開
- 3月 ————— 緊急募金告知を4大紙にニューズリリースし朝日新聞と読売新聞の2紙が掲載
- 4月8～30日 ————— 大阪YMCAより職員3名・会員ボランティア2名を仙台YMCA、盛岡YMCAにコーディネーターとして派遣
- 5月 ————— (公財)大阪YMCA理事会の下に、「東日本大震災復興支援募金委員会」を設置
- 5月30日 ————— 第1回 支援活動報告会開催
- 7月9日 ————— 研修会「被災者との関わり方・留意点について」(職員・ユースリーダー対象)開催
- 8月2～12日 ————— 盛岡YMCA夏期キャンプにユースボランティアリーダーを派遣
- 8月13～15日 ————— 聴覚障がい青少年交流キャンプ(HHキャンプ)に被災地の青少年を招待
- 8月15～17日 ————— フレンドシップ・キャンプ(第1回六甲山親子キャンプ)開催
- 7月～8月 ————— 夏期サンシャインキャンプ(宿泊サマーキャンプ・日帰りキャンプ)に招待
- 8月30日～9月16日 ————— ユースリーダーによる被災地キャラバン
- 10月21日 ————— チャリティゴルフ大会 開催(協力 社団法人神戸ゴルフ倶楽部)
- 11月25～28日 ————— 東YMCAスタッフとユースリーダーが、宮城県三陸町志津川自然の家(仮設住宅)で炊き出し
- 12月13日 ————— 福島県のセントポール幼稚園へミネラルウォーター2ℓ720本を寄付
- 11月27日～12月22日 ————— 大阪YMCAより職員を仙台YMCA、盛岡YMCAに派遣
- 12月24～29日 ————— 盛岡YMCAスキーキャンプにユースボランティアリーダーを派遣
- 12月26～28日 ————— 冬期フレンドシップ・キャンプ(六甲山のびのびキャンプ)に山元町の小学生を招待

2012年

- 1月5～9日 ————— 盛岡YMCA宮古ボランティアセンターのスキーキャンプにユースボランティアリーダーを派遣
- 1月18日～2月14日 ————— 大阪YMCAより職員を仙台YMCA、盛岡YMCAに派遣
- 1月28～29日 ————— 香港インターナショナル交流キャンプ(六甲山YMCA「親子にじ色キャンプ」)に被災地のご家族を招待
- 2月11日～3月9日 ————— 大阪YMCAより職員を仙台YMCA、盛岡YMCAに派遣
- 3月25～27日 ————— 冬期フレンドシップキャンプ(春のキャンプ)に被災地の青少年を招待
- 2012年4月～2013年3月 — 宮古ボランティアセンターコーディネーターとして木田スタッフを1年間派遣
- 7月14日～8月11日 ————— 夏期サンシャインキャンプ(サマーデイキャンプ・宿泊キャンプ)に招待
- 7月31日～8月8日 ————— 聴覚障がい青少年交流キャンプ(HHキャンプ)に被災地の青少年を招待
- 8月16～18日 ————— フレンドシップ・キャンプ(第2回六甲山親子キャンプ)開催
- 9月11日 ————— 震災支援活動報告会開催(スタッフ対象)
- 2012年12月～2013年3月 — 冬期・春期サンシャインキャンプ(宿泊スキーキャンプ・デイキャンプ)に招待
- 12月8日 ————— こころのケアを考える研修会開催(主催:ワイズメンズクラブ国際協会西日本区メネット事業)

2013年

- 2月23日 ————— ワイズメンズクラブ中西部との協同でチャリティイベントを開催(いきいきエイジングセンターにて)
- 3月23～28日 ————— 盛岡YMCA宮古ボランティアセンターヘスキーリーダー派遣
- 8月1日 ————— 松尾台幼稚園スタッフ3名が被災地を訪問、支援金を手渡す
- 8月3～5日 ————— 宮古ボランティアセンター 田沢湖サマーキャンプに大阪YMCAリーダーOG1名が参加
- 8月15～17日 ————— 第3回 六甲山親子キャンプ開催
- 現在まで ————— 広報誌「大阪青年」(年10回発行)に継続して被災地報告を掲載
- 現在まで ————— 定期的に被災地支援活動報告会・勉強会を開催(教職員会・キリスト教理解セミナー等を通して)



復興支援活動の今後

東日本大震災から2年半。私たちにできることは小さなことかもしれませんが、被災者の方々にその時々に必要な支援とは何かをひとりひとりが考え、行動し、震災からの復興の一助となることを願って活動を続けてきました。歳月が流れ、被災地の状況も変わり、必要とされる支援も変化していきます。今後も大阪YMCAは、将来の復興の担い手となる子ども達への支援を中心に、日本YMCA同盟の掲げる「Big Heart Project(ビッグハートプロジェクト)」に賛同し、支援活動を継続していきます。皆様の変わらぬご協力とご支援をお願いいたします。

【日本YMCA同盟 震災報告HP】 <http://www.ymcajapan.org/eastjapanindex/index.html>

【フェイスブックページ】 <https://www.facebook.com/BigHeartYMCAJapan>

大阪YMCA 東日本大震災支援募金ご協力をお願い

継続した支援を行なうため、引き続きみなさまのご支援をお願いいたします。

- 現金にて……………お近くのYMCA窓口にお持ちください。
- 銀行振込にて……………三菱東京UFJ銀行 大阪為替集中支店 普通預金 No.0230050
[名義]公益財団法人大阪YMCA(通信欄に「東日本」とご明記ください)
- インターネットにて……………インターネット上で、クレジットカード決済による寄付受付を行なっております。

大阪YMCAホームページより、 をクリックいただくか、
インターネットアドレス <https://www2.donation.fm/osakaymca/form.php> からお入りいただき、
操作をお願いいたします。

■寄付金の流れ



【寄付金に係る税制優遇制度について】

個人様からの公益財団法人大阪YMCAに対する寄付金につきましては、確定申告の際、

- ① 一般的により減税効果の高い「**税額控除(新設)**」と
- ② 従来からの**特定公益増進法人**に対して寄付した場合の「**寄附金控除(所得控除)**」とのいずれか一方を選択できます。①「**税額控除**」を選択することによって、多くの場合所得税の還付金額が増えます。なお、法人様からの寄付金につきましては、別枠の損金算入限度額が設けられています。

詳しくは本部事務局までお問い合わせください。

寄付金領収証発行についてお近くのYMCA窓口もしくは本部事務局にご依頼ください。

確定申告の際に必要となります「寄付金領収証」と「税額控除に係る証明書」をお渡します。

Big Heart Projectとは…



「Big Heart」は英語で「思いやり」「やさしさ」を意味します。

YMCAは、人々の心に寄り添う支援を続けます。

YMCA Big Heart Projectは、津波による被災地、福島第一原発事故による放射能の影響を受ける地域、そして避難をしている方々が暮らす全国各地で、全国のYMCA・学生YMCA・ワイズメンズクラブが協力して行う、復興のための活動です。

1. 未来を創る子どもたちを育む

子どもや青年が、自分たちの“いのち”を守り、豊かな自然を愛する心を育みます。そして彼らが、未来を創る主人公となるよう、リーダーシップの育成に努めます。

2. すべての“いのち”が光り輝くように

あらゆる世代の人々のクオリティー・オブ・ライフの向上を支援します。また福島第一原発事故による影響から、子どもたちを守る努力を続けます。



大阪YMCA本部事務局

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL 06-6441-0894 FAX 06-6445-0297
info@osakaymca.org
<http://www.osakaymca.or.jp/>